

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

13



ドイツのNPOは、自然保護と景観保護の分野では大きな発言権を持っていると感じます。行政も今後の方向性として、持続可能な社会づくりのために政策を出し、プロジェクトを推進し続ける一方で、できるだけ多くの事業により多くの市民参加を促していくことを考えているということです。

庭のゴミの分別や回収の仕方工夫が凝らされています。リサイクルのできる資源(ビン、紙・生ゴミ等)以外の一般ゴミは回収ボックスの容量を超える分は有料になります。また、ゴミの削減に対しては、ゴミ袋の配布拠点を多く設けない政策を取っています。具体的な場所として、市の環境情報センター

普及するリサイクル

日常的にゴミ削減工夫

多くの市民が関心を持っているだけでなく、日常にかかわりを持っている。みについては、特に一般家

や文具店など人が出入りする場所をいくつか限定しています。さらに、ゴミ回収の頻度

がもたらえるしくみになっています。実際に何度かスーパーに行きましたが、ワインなどの空きビンやペットボトルを返却している若者の姿も多く見かけました。この仕組みが出来上がった要因の一つは、メーカーや飲料の種類にかかわらず、容器の規格がすべて共通のものであることや、スーパーや道路のサービスエリアなどあらゆるところで回収のための自動販売機が設置されていることです。

リサイクルが進んでいるため、ほとんどのペットボトルが傷だらけで、摩擦により表面が白濁しているものもたくさんあり、本格的なドイツにおけるリサイクルを実感しました。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

毎週水曜日掲載



ドイツのスーパーの隅にある瓶返却機械